



# 上越市の利用者支援事業について

平成28年2月22日(月)

新潟県上越市健康福祉部こども課

企画管理係長 西山 春三

# 上越市の利用者支援事業（じょうえつ子育てinfo）

---

開設年月日

平成26年4月1日

開設場所

上越市こどもセンター（地域子育て支援拠点事業）

開設日時

週7日（毎月第3水曜日および年末年始を除く）

9：00～16：30

相談の受付方法

来所、電話、メール

運営体制

専任職員1人（保育士）、代替職員2人（地域子育て支援士2種）

上越市

# こどもセンター

上越市の地域子育て支援拠点事業（全26か所）の中核となる施設



開設日：週7日

（毎月第3水曜、年末年始をのぞく）

開設時間：8：30～17：00

対象：就学前の子どもと保護者

利用人数：年間のべ約11万人

1日平均300人程度

# こどもセンターの事業

---

- 親子の交流の場を提供、交流の促進
- 子育て等に関する相談および援助
- 地域の子育て情報の提供
- 子育てセミナー開催
- 保育ボランティアの養成
- 育児サークルの支援
- 地域連携（ボランティア受入等）
- **利用者支援事業（基本型）**

センター内にファミリーサポートセンターを設置

# 事業開始までの経緯

---

- 2001年 「こどもセンター」の開設
- 2006年 「こどもセンター」の運営をNPO法人マミーズ・ネットへ委託
- 2012年 NPO法人マミーズ・ネットが新潟県の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」として、市、NPO、民間の連携による子育て相談のワンストップ窓口「じょうえつ子育てinfo」をこどもセンターに設置
- 2013年 「じょうえつ子育てinfo」が地域子育て支援拠点事業の地域機能強化型となる。（補助から市委託事業へ）  
事業の一部は法人の自主事業のまま
- 2014年 利用者支援事業が制度化されたことにより、「じょうえつ子育てinfo」が当該事業（基本型）へ移行。様々な子育て相談から保育園、認定こども園などの空き情報の提供、関係機関との連携などワンストップ窓口として確立

# 市の課題と対応(じょうえつ子育てinfoのきっかけ)

---

地域の子育て力の低下

子育て不安・負担感の潜在化

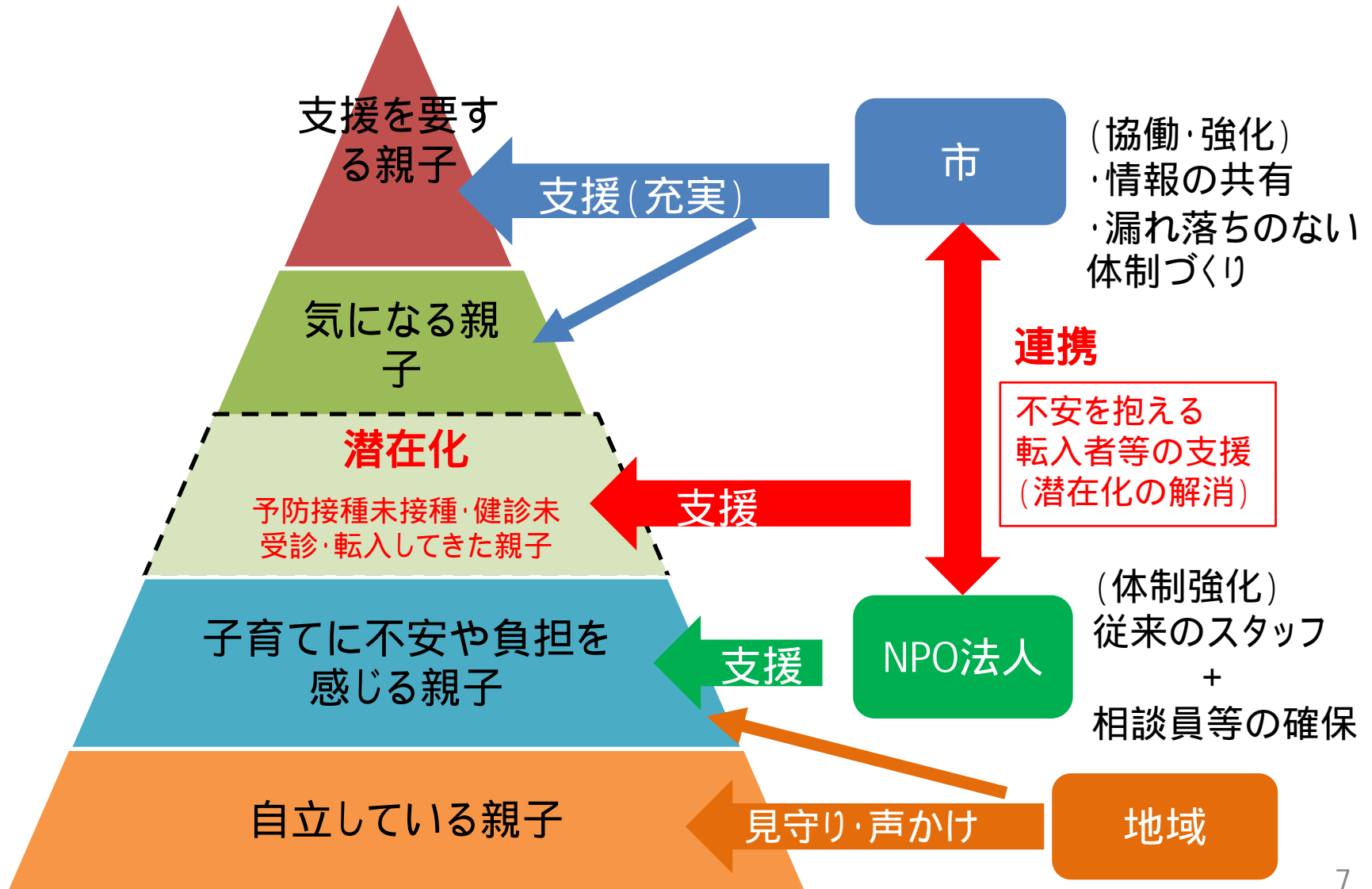
少子化・地域のつながりの希薄化

支援を要する親子、気になる親子の増加

市だけでは把握、拾い上げきれない子育てに関する悩みや困り感をもつ親子へのアプローチが課題

NPO法人と上越市が連携を強化し、子育て世帯を総合的に支援

# NPO法人との連携



# じょうえつ子育てinfoの市の役割

---

## 市の役割

深刻な事案や高度な専門的知見を有する事案に対応

事業の全体調整

NPO法人の支援

NPO法人の取組の周知

職員育成の支援

情報収集・提供の支援

支援を要する親子への支援の充実

(NPO法人が取り組む以外の)

相談対応

情報提供

世帯訪問

保健師、栄養士等による訪問

相談員による訪問



# じょうえつ子育てinfoのNPO法人の役割

---

## NPO法人の役割

### 不安感や負担感の解消による深刻化の予防

#### 不安を抱える転入者等の支援(潜在化部分の解消)

日常生活に関する相談対応

病院、健診、子育てサービス利用時等の同行支援

地域の子育てサービスの情報提供

健診、予防接種の情報提供

市からの依頼による世帯訪問

### 地域で支える担い手の育成

地域の活動員(ファミリーサポートセンター提供会員等)  
の育成

- ・まちづくり団体、町内会等の子育て経験者を対象に地域で子育てを支える人材を育成する。

# じょうえつ子育てinfoの取り組み

---

## 子育てサービスのコーディネート

- ・ 個々の背景を聞き取ったうえで、官民含めたオーダーメイドの子育て支援を行う。

保育園、一時預かり等の利用（空き）状況の把握については、市担当課と連携しながら実施。

## 初めて子育てする親、転入者への積極的な働きかけを行い、子育て支援情報を提供する

- ・ 市の窓口で転入手続き時に紹介冊子を渡す
- ・ 母子健康手帳交付時に、窓口で紹介冊子を渡す

## 地域と連携して子育て家庭を支える仕組みの構築

- ・ 公共、民間の各機関を結びつける
- ・ インフォーマルな支援と結びつける

## 同行支援

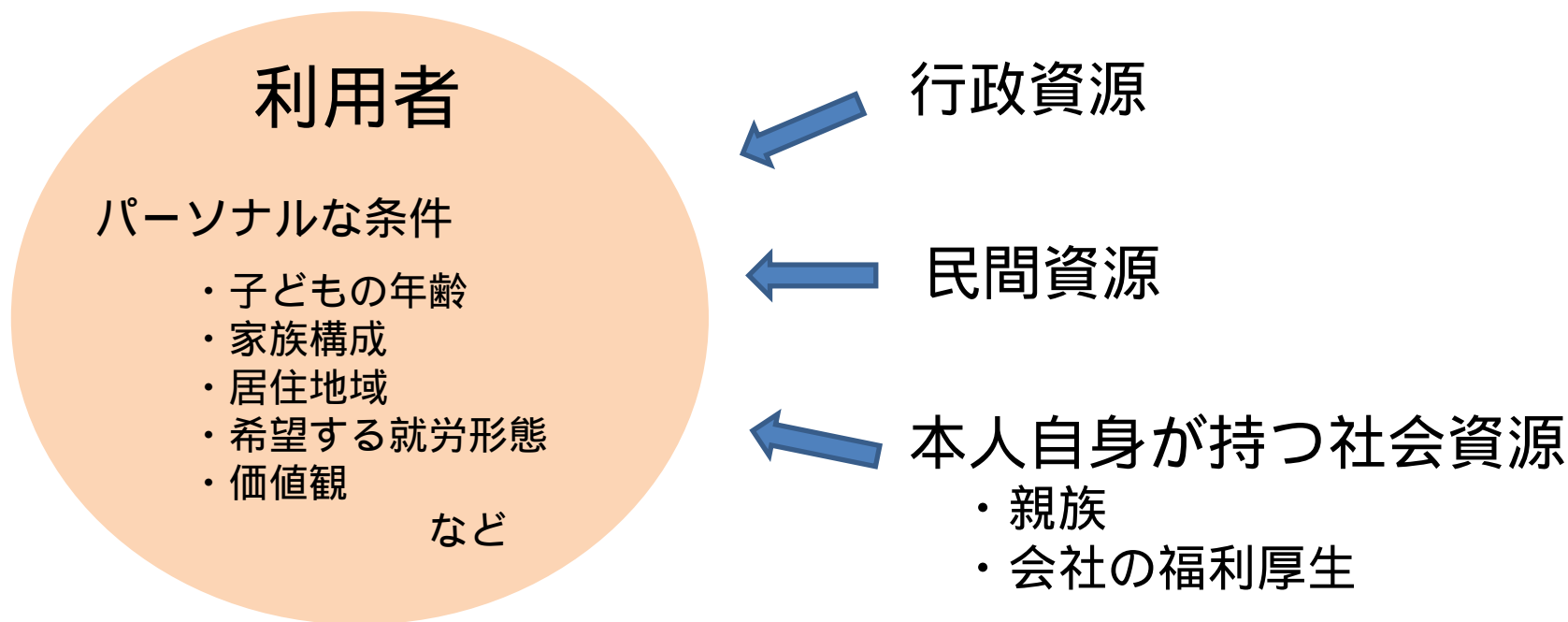
- ・ 病院、健診、予防接種、諸手続の同行支援
- ・ 子育てサービス（子育てひろば等）利用時の同行支援

## 訪問支援

- ・ 訪問して、共に問題解決を図る

、については委託先独自の事業

# 子育てサービスのコーディネート



使える資源をピックアップして  
希望に沿ったパーソナルな子育て支援プランを紹介

本人が決定

# 初めて子育てする親や転入者への積極的な情報提供

## 子育てinfoハンドブックを製作

質問の多かった項目を集め、利用者目線で紹介したハンドブックを製作・配布

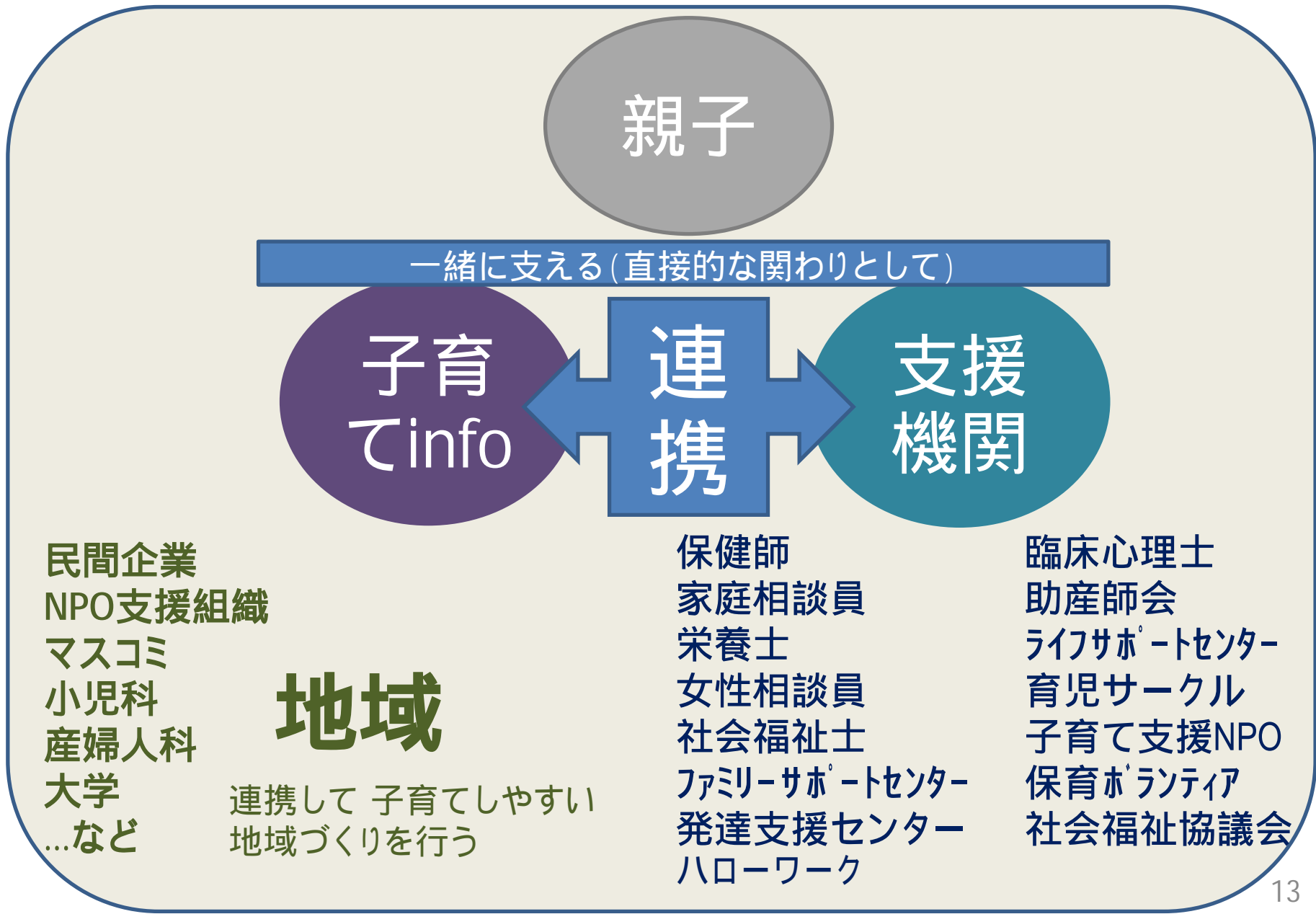
知りたい項目  
を効率よく紹介

### 配布先

転入窓口（小学生以下のいる世帯）  
母子手帳交付時  
地域子育て支援拠点  
ハローワーク  
許可をいただいた小児科、産婦人科、薬局にも設置。



# 地域と連携して子育て家庭を支える仕組みの構築



親子

一緒に支える(直接的な関わりとして)

子育てinfo

連携

支援機関

- 民間企業
- NPO支援組織
- マスコミ
- 小児科
- 産婦人科
- 大学
- ...など

## 地域

連携して 子育てしやすい  
地域づくりを行う

- 保健師
- 家庭相談員
- 栄養士
- 女性相談員
- 社会福祉士
- ファミリーサポートセンター
- 発達支援センター
- ハローワーク

- 臨床心理士
- 助産師会
- ライフサポートセンター
- 育児サークル
- 子育て支援NPO
- 保育ボランティア
- 社会福祉協議会

# 取り組みの成果

---

## 「相談機関」ではないため、気軽に利用 子育ての不安・負担感の軽減、虐待を未然に

- ・気軽な話から、必要な支援の利用や相談機関へつながることもある。
- ・ちょっとした手助けで、抱えている問題を解決に導く。

## 転入者や1人目の子育ての人へ必要な情報を届けられた

- ・支援情報、出かけられる場所等を伝えることで、子育て家庭の孤立化の防止。

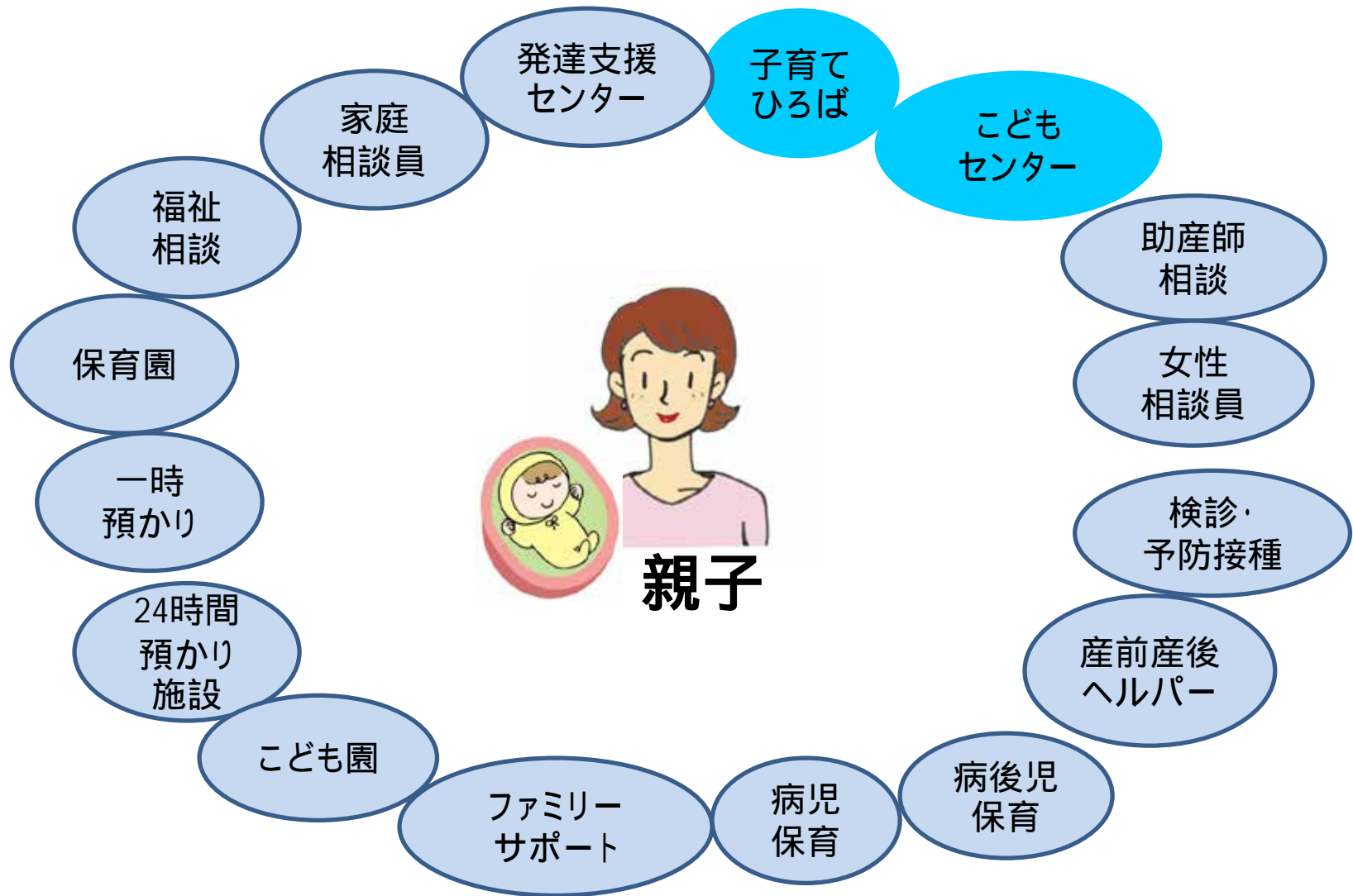
## 子育てと仕事の両立を支援

- ・育休中の人の職場復帰の相談や仕事を始めたい人の相談。  
周囲の助けを借りていいことの確認。

## 民間も含めた子育て支援のコーディネートが可能に

- ・行政の支援の対象からもれてしまう人への民間支援の紹介。

# 行政が用意した支援策はたくさん

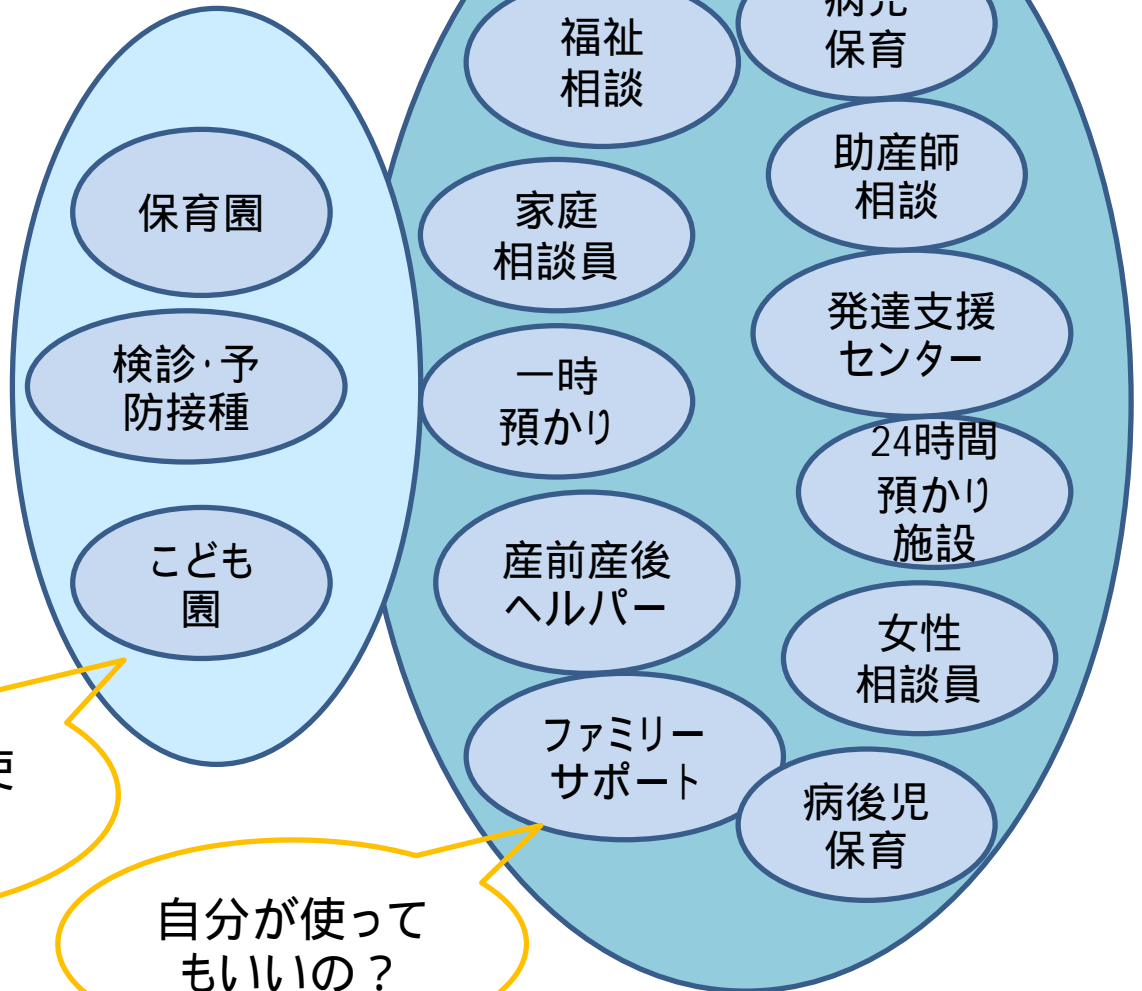


しっかりとサポートしたはずなのに・・・

# 親子からみると？

非日常的で  
心理的に距離がある

日常の遊びの場であり  
心理的に近い

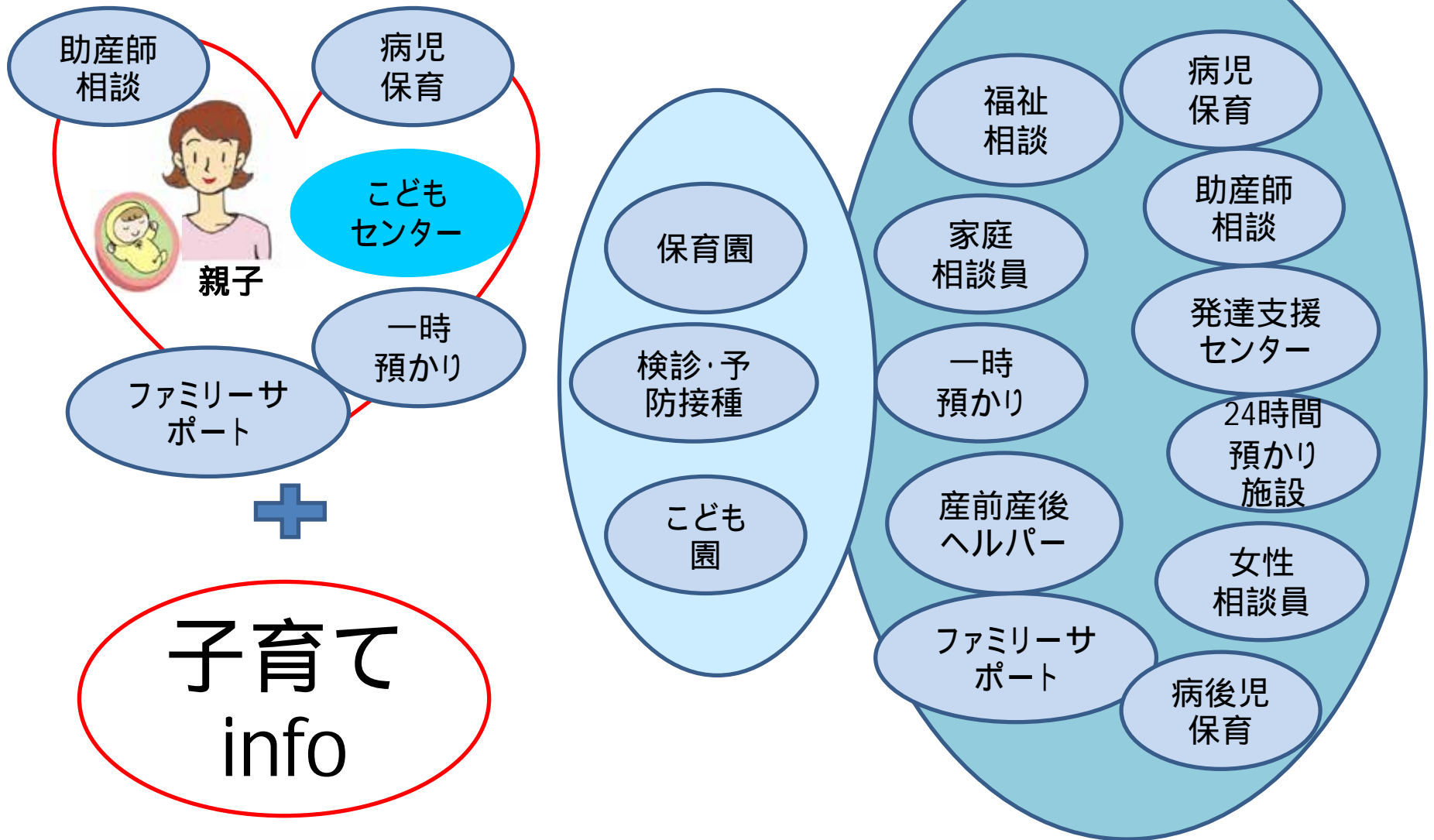


時期が来たら使  
うけど..

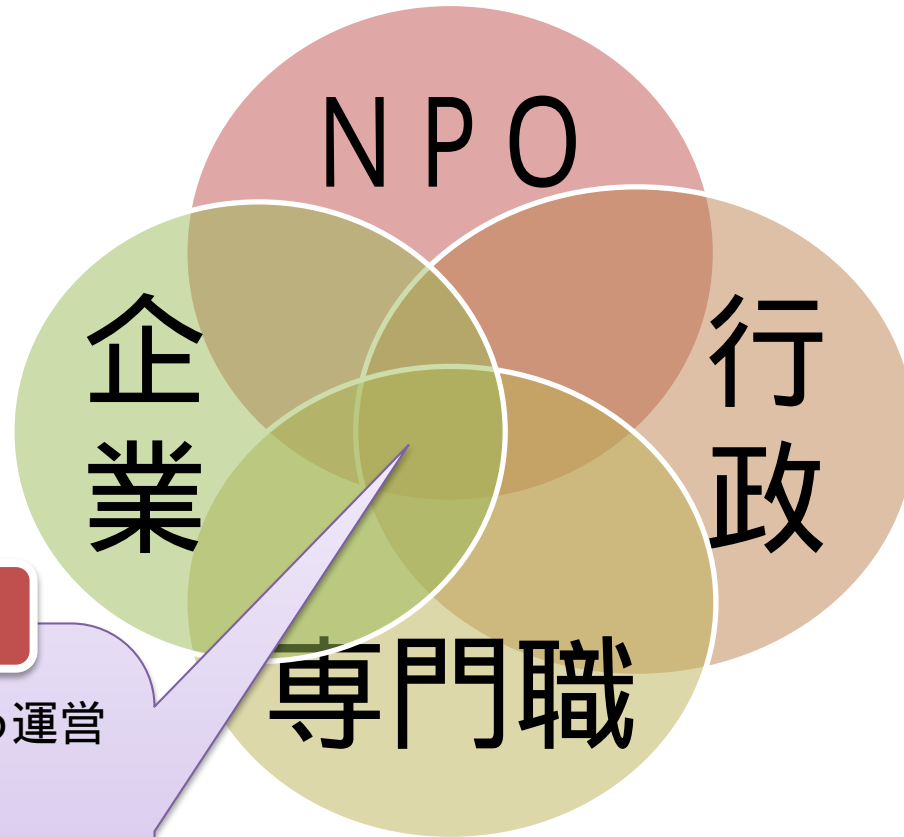
自分が使って  
もいいの？



# 子育てinfoが入ると



利用者ニーズに一番近い  
「隙間」を発見しやすい



無駄のない事業  
実施に貢献  
継続のための知  
恵

利用者の信頼  
が厚い  
多くの制度を  
持っている

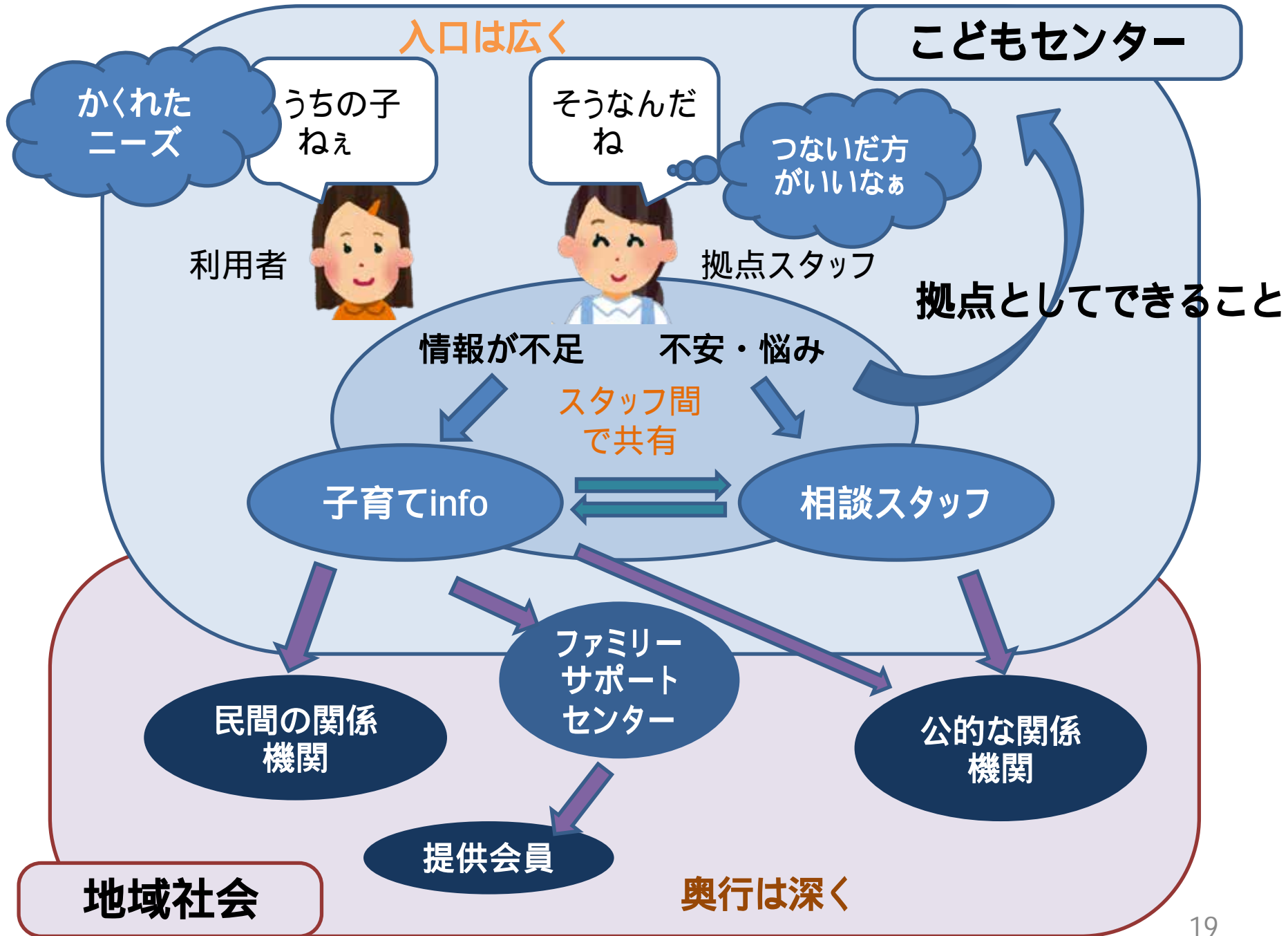
### 会議体

地域のためにどう運営  
するか

必要性を確信

継続のために動く

事業の意義や必要性を早くから  
理解し、継続のために活躍



# 互いに助け合うことができる担い手を育成

## 少しの支援が必要な親子

- ・初めて出産
- ・地元を離れての子育て など

声かけ

## 支え合うことができる地域

- ・子育て支援NPOスタッフ
- ・子育てサークルのリーダー的存在
- ・こども会やPTAの役員
- ・地域のNPOで活躍する人
- ・ファミリーサポートセンター会員  
など

本事業の  
アプローチ

## お互いに支え合う親子

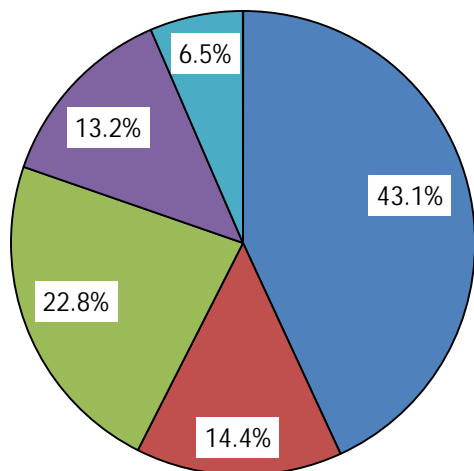
- ・子育てひろば
- ・サークル
- ・地域のイベント など

# 今後の課題

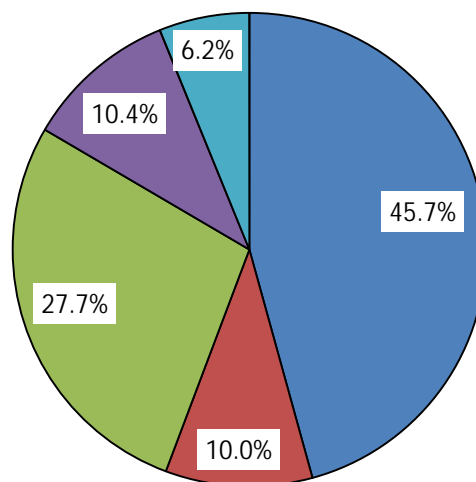
---

- 妊娠期から情報を伝えられる体制づくり  
出産前後の各ライフステージに関わる支援者とつながることで、出産前から情報を伝えられる方法を検討する必要がある。
- 開設場所から離れた場所に住む利用者へのアプローチ  
13区（合併前町村）にある地域子育て支援拠点に出向く

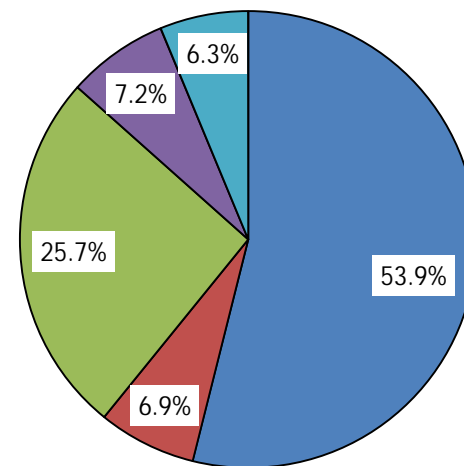
# 年度別利用者属性の比率



24年度



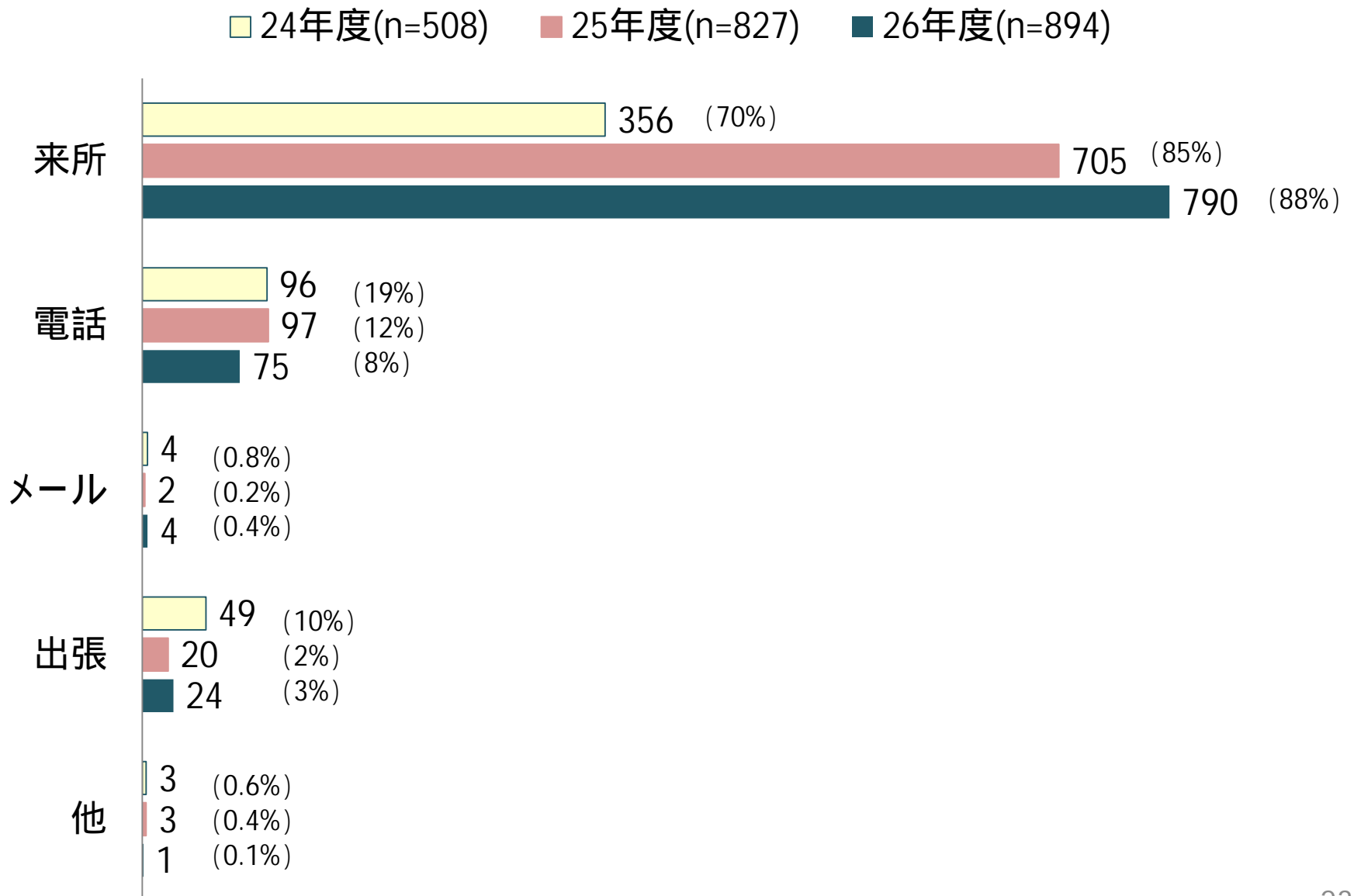
25年度



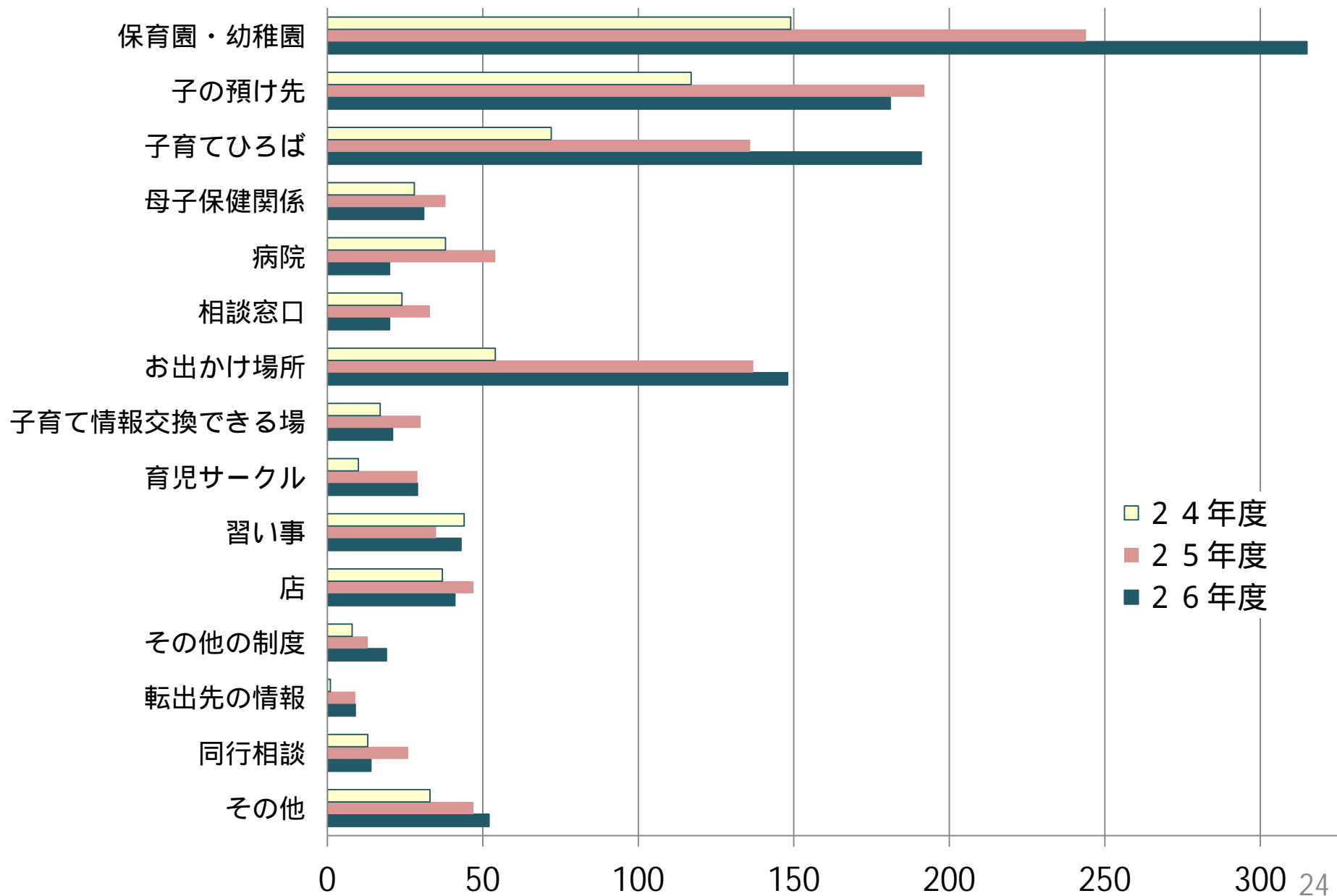
26年度

- 既住者・第1子
- 転入者・第1子
- 既住者・第1子以外
- 転入者・第1子以外
- 不明

# 利用方法



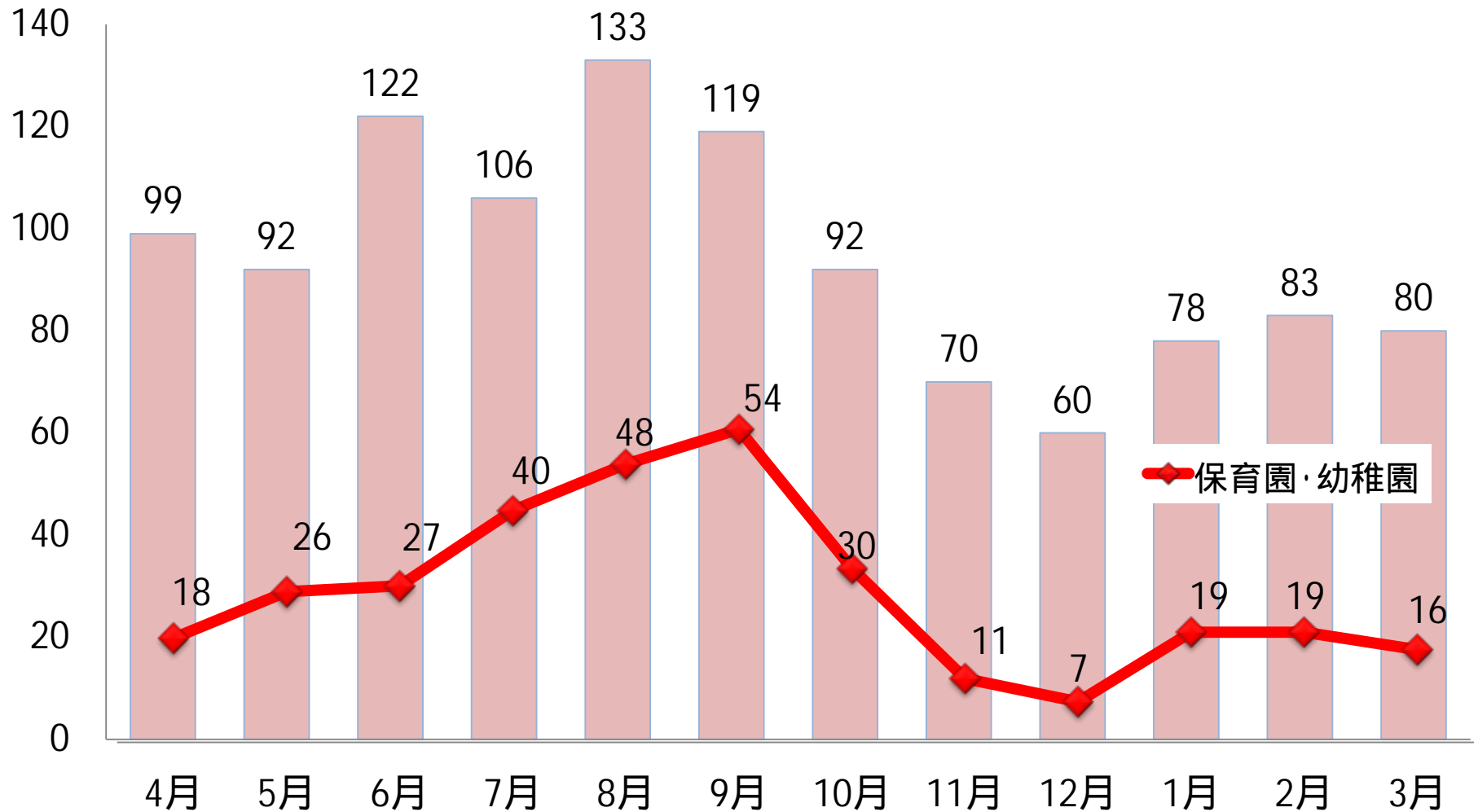
# 相談内容 (延べ件数)





# 平成26年度 月別相談件数

(折れ線は、うち「保育園・幼稚園について」の相談件数)



ご清聴ありがとうございました

